

## 史料館講座講演録について

生田 享子

ここに活字化した講演録は、辻邦生氏の「歴史小説と歴史資料―『西行花伝』を中心として」(一九九五年七月六日)と、辻佐保子氏の「辻邦生展記念講演」(二〇〇四年一月二七日)である。いずれも、学習院大学史料館が年三回開催している無料の市民向け公開講座「史料館講座」でご講演いただいたもので、開催当初より活字化を望む声が多く寄せられていた。

二〇〇四年に当館で「辻邦生展」を開催した際、会場では「アルバムから」と題した辻邦生氏の写真(幼少時〜デカルト街記念プレート)とともに、辻邦生氏の講演会のダイジェスト版を上映し、辻佐保子氏には展覧会の出展作品に関連した講演をしていただいた。二つの講演録を紹介するにあたり、辻邦生氏と当館との関係、資料、展覧会について若干の補足を加えたい。

『西行花伝』『背教者ユリアヌス』などの歴史小説や、朝日新聞での連載小説『雲の宴』で知られる作家辻邦生氏は、文学部教授としての一五年間を含め約三五年の間、学習院大学で教鞭を執った。こうした関係から、当館では昭和六一年（一九八六）以降、継続的に辻邦生氏から執筆に関わる資料の寄託を受けることになり、現在に至っている。

資料は、自筆原稿・創作ノート・日記・書簡・著書など約二万件からなり、整理、保存処置を加えている。

著書は、単行本、文庫本、特装本、教科書、新聞、雑誌、映画・演劇パンフレットなどで、収録作品・初出・発行人・出版社などを記載した書誌目録（表1）を作成した上で、専用の書架に五十音順に並べている。また、辻邦生氏の全作品を網羅したデータベース（表2）を作成中であり、著作だけではなく評論家による書評もここに加える予定である。

著書以外の資料は、劣化を防ぐためクリップ・ホチキスを外し、保存ホルダーや中性紙封筒・中性紙箱に収納している。現在、目録作成のための仮整理がほぼ終了し、様々なキーワードによって多角的かつ横断的に検索できるよう、目録のデータベース化（表3）を進めている。

資料目録の情報として立てている項目は、以下の通りである。

- ①箱番号…受入順に箱に付与した番号。
- ②整理番号…箱ごとに資料に付与した番号。
- ③受入年月日…資料受入の年月日。
- ④資料群…資料が関係する作品・著書の題名。複数あるときは／で区切って併記。作品名が改題されている場合は、

改題後の作品名を（改題Ⅱ）として補う。

⑤資料…資料名。資料の原表題を採ることを原則とするが、「今日の視角」等のようにシリーズタイトルを有している場合は、原表題に関わらず／で区切ってシリーズ名を補足。原表題だけでは内容が不明瞭な資料、原表題がない資料については、（ ）で内容表題を、それも困難な場合は《 》で頭書き、あるいは【 】でキーワードとなる語句を採る。紙背は裏面と判断される方に\*印を付して区別。

⑥掲載書誌…原稿・校正刷が掲載された書籍・雑誌名。複数あるときは／で区切って併記。

⑦所収原稿…資料に所収される著作情報。

⑧年代…資料に記された作成年月日を表記し、推定は（ ）で補足。元号は西暦に直す。

⑨作成・受取…資料の表記を採ることを原則とし、推定できる場合は（ ）で補足。但し、創作ノート・原稿等は辻 邦生氏作成であることが明らかなので、表記の有無に関わらず（ ）書きにはしていない。

⑩種別…資料を以下に分類。日記、創作ノート、手帖、執筆資料、関連資料、原稿、校正刷、掲載書誌、アルバム、写真、評論等。

⑪既発表／未発表…活字化の有無。

⑫形態…原稿用紙、用紙、冊子、新聞、新聞切抜、葉書、封筒、書簡等。

⑬点数…一個体を一点とし、貼り合せてあるものも一点と数える。紙背資料は（ ）書きし、二枚貼り合せてあるものを別個に扱う場合は（ $\frac{1}{2}$ ）とする。

⑭備考…数量の内訳、辻 邦生氏による書き入れの有無、資料の状態等。

整理する上で特徴的なことは、資料の受入順に箱番号を付与していることである。これは辻佐保子氏が講演録の中で触れているように、辻邦生氏自身が資料を分類、箱詰めした上で、当館に運び込んでいたことによる。

当館では、辻邦生氏から寄託されたこれらの資料を「辻邦生関係資料」と名付け、安全な保管と運営に関わる問題を協議し、資料を活用して文学研究に資することを目的として、二〇〇〇年に学外委員・学内委員・史料館委員から構成される「辻邦生関係資料 管理・運営のための小委員会」を設立した。外部機関からの資料の閲覧や利用申請に対しては、資料利用内規に基づき小委員会と協議・承認を行っている。二〇〇七年三月現在での委員会構成は次の通りである（五十音順、敬称略）。

学外委員：菅野昭正 高橋英夫 辻佐保子

学内委員：中条省平 堀内ゆかり

史料館委員：神田龍身（館長） 野尻泰弘（助手） 生田享子（担当学芸員）

最後に、記念講演の中で触れられている「辻邦生展」の構成と主な出品資料について簡単に紹介しておく。

I 書くこと 教えること

・学習院大学教務関係行事予定表（一九六二年九月～十二月）

授業に関するメモとともに作品の執筆計画も書き加えられ、当時の多忙な日常を窺わせる資料。九月一五日の欄外には「宗吉」（北杜夫氏）の名前も見ることができ。

・学習院大学での講義一覧

講演録でも紹介されている、北村真澄氏作成の講義題目リスト。

II 作品ができるまで―「春の戴冠」を題材として

・「春の戴冠」執筆資料

『THE FLORENTINE RENAISSANCE』CHAPTER 13・14。余白には執筆のための書き込みが見られる。

・「春の戴冠」創作ノート

登場人物の設定やプロットなどとともに、作品のテーマが図式化されている。

・「春の戴冠」下書き

第一章部分の下書きで、実際の作品ではこの部分がさらに大きくふくらませて展開されている。

III 書く中で生み出されたもの

・「樹の声 海の声」執筆資料

主人公のモデルとなったマリア・ユリ・ホエツカ夫人の書簡。余白には夫人の肖像画を描いている有島生馬の文字が読める。

・「嵯峨野明月記」執筆資料

様々な資料をもとに自作された年表。出版社の用箋を何枚も継ぎ足しているところから、構想が次々と広がっていった様子が読み取れる。

・創作ノート

小説手法を研究したノート。ラブレー、モリエール、シェイクスピア等の作品の登場人物やあらすじをまとめ、図式化を試みている。

・手帳（一九五九―一九六二）

手帳に書き入れた初期創作ノート。「私はほとんどすべての着想や主題を小型の手帳に書き込む」という辻邦生氏の創作の源。「背教者ユリアヌス」「夜」等、後に作品化された小説のタイトルを見ることが出来る。

#### IV 書くこと 描くこと

・スケッチブック（一九五七年九月～一〇月）

フランス政府保護留学生として初めて渡航した時のもの。香港、マニラ、サイゴン、コロンボ等の寄港先の様子が描かれている。

・手帳（一九五九年八月～九月／一九五九年九月／一九八七年七月）

ギリシャ、シシリー、イタリア旅行時の手帳。各地でのデッサン、日記、創作メモ等、様々な記述が見られる。  
・フランス文学科教員の似顔絵

「草の花」や「愛の試み」で知られる作家福永武彦氏の似顔絵が描かれていることから、共に学習院大学で教鞭を執っていた一九七〇年代後半のものと思われる。

#### V 作品の数々

代表的な作品を「小説」「歴史小説」「新聞連載小説」「小説論」「エッセイ・対談」「映画評・音楽評・絵画評」「童話」「シリーズ」「全集」のジャンルに分けて陳列展示した。

#### VI 映像コーナー

・辻邦生氏講演「歴史小説と歴史資料―『西行花伝』を中心として―」

二時間の講演を一五分に編集したダイジェスト版のため、講演全体の主旨がわかるよう内容を抜粋した補助資料を配布した。



展示風景（作品の数々）



展示風景（映像コーナー）

・「アルバムから」

幼少時からパリデカルト街の在住プレートまで、約五〇枚の写真をプロジェクターで投影した。

初出書誌	再録書誌	出版社	発行年月日	総頁数	備考
「亡命者たち」～「海のむこうからの手紙」：『海の手紙』：『海』1974年1月号～1974年12月号、「あとがき」：書き下ろし	「亡命者たち」～「海のむこうからの手紙」：『ある生涯の七つの場所1 霧の聖マリ』（中公文庫、1992年2月10日）／『辻邦生全集 5 ある生涯の七つの場所1・2・3』（新潮社、2004年10月25日）	中央公論社	1975年2月28日	305	
訳し下ろし		集英社	1995年5月31日	142	翻訳 原題：Christophe Bataille 『ANNAM』（Les Editions Arléa, Paris 1993）
『朝日ジャーナル』1978年11月3日号～1981年12月5日号	『樹の声 海の声（上）・（中）・（下）』（朝日新聞社、1982年4月20日・5月20日・6月20日）／『樹の声 海の声1～6』（朝日文庫、1985年8月20日・9月20日・10月20日・11月30日・12月30日・1986年1月20日）	朝日新聞社	1983年4月15日	1140	限定350部の内1番、2番 紙製夫婦箱、布張差込函入 付：小泉淳作オリジナル銅版画「桜」 2番本は本体のみ
書き下ろし	「ある航跡を追って」：『時刻のなかの肖像』（新潮社、1991年5月20日）	イザラ書房	1980年12月31日	66	帯推薦文
『週刊新潮』2000年2月17日号～2月24日号		新潮社	2000年12月20日	187	評論（作家論）
『プラトン全集別巻 総索引』月報（岩波書店、1978年1月27日）	＝改題「先生とプラトンと索引と」：『森有正 感覚のめざすもの』（筑摩書房、1980年12月10日）＝改題「先生とプラトンと索引と」：『永遠の書架にたちて』（新潮社、1990年7月25日）	岩波書店	1978年1月27日	731	
		東京書籍	1999年2月10日	335	一部引用
『展望』1968年1月号～2月号	『THE SIGNORE』（講談社インターナショナル、1996年）	講談社インターナショナル	1989年12月	197	



表1 書誌目録

50音	共著者・ 編者・原著者 (先頭1名)	著作情報	シリーズ名	書名	収録作品名	掲載頁
あ	著者：辻邦生	著	ある生涯の 七つの場所 <sup>1</sup>	霧の聖マリ	「亡命者たち」、「雪の前 雪のあと」、「女たちの館」、「落ち葉のなか」、「霧の聖マリ」、「北海のほとり」、「ロザリーという女」、「坂の下の家」、「鉄橋」、「帰ってきた人」、「燕のくる町」、「海のむこうからの手紙」、「あとがき」	
あ	著者：クリストフ・バタイユ、 訳者：辻邦生	著		安南・愛の 王国	①「安南—愛の王国」 ②「愛と情念の寺院— 解説」	① 7-124 ② 125-142
き	著者：辻邦生	著		樹の声 海 の声 限定 版	「樹の声 海の声」	
さ	著者：池澤夏樹	帯推薦著		サーカムナ ヴィゲーシ ョン	「ある航跡を追って」	帯
は	著者：久世光彦	(評論)		薔薇に溺れ て	久世光彦「のちの思い に」	124-127
ふ	編者：藤沢令夫	月報著	プラトン全 集別巻	総索引	「『プラトン総索引』の 周囲」	月報 5-7
ん	編者：吉田熙他	(引用)	教材	新編国語1	「海の中に母がいる」 (一部引用)	110-114
T	原著者：辻邦生 訳者： STEPHEN SYNDER	(翻訳本)		THE SIGNORE	英語訳「安土往還記」	

再録書誌

『辻邦生作品全六巻1』(河出書房新社、1972年11月30日)／『秋の朝 光のなかで』(筑摩書房、1976年8月20日)／『見知らぬ町にて』(新潮文庫、1977年7月30日)／『辻邦生全短篇』(中央公論社、1978年10月5日)／『辻邦生全短篇2』(中公文庫、1986年6月10日)／『辻邦生精選短編シリーズ3 遠い園生』(阿部出版、1990年11月30日)／『遠い園生 限定版』(鶴声居、1974年9月15日)／『辻邦生全集8』(新潮社、2005年1月25日)

『城・夜』(河出書房新社、1969年2月28日)／『辻邦生集 新鋭作家叢書』(河出書房新社、1971年11月30日)／『異邦にて』(角川文庫、1972年8月30日)／『辻邦生作品全六巻1』(河出書房新社、1972年11月30日)／『サラマンカの手帖から』(新潮文庫、1975年10月30日)／『城・夜』(河出文藝選書、1977年8月15日)／『辻邦生全短篇』(中央公論社、1978年10月5日)／『辻邦生全短篇1』(中公文庫、1986年4月10日)／『辻邦生精選短篇シリーズ3 遠い園生』(阿部出版、1990年11月30日)／『城・ある告別』(講談社文芸文庫、2003年2月10日)／『辻邦生全集2』(新潮社、2004年7月25日)

『辻邦生第1エッセー集1961～1970 海辺の墓地から』(新潮社、1974年1月10日)／『外国文学の愉しみ』(レグルス文庫、1998年7月13日)

サマーセット・モーム編『世界100物語⑧(人生の観察)』(河出書房新社、1997年5月20日)

『小説への序章』(河出書房新社、1968年2月1日)／『辻邦生作品全六巻6』(河出書房新社、1973年6月3日)／『小説への序章』(河出藝術選書、1976年3月25日)／『小説への序章』(中公文庫、1979年3月10日)／『辻邦生全集15』(新潮社、2005年8月25日)

＝改題「内面への転回」：『小説への序章』(河出書房新社、1968年2月1日)／『辻邦生作品全六巻6』(河出書房新社、1973年6月3日)／『小説への序章』(河出藝術選書、1976年3月25日)／『小説への序章』(中公文庫、1979年3月10日)／『辻邦生全集15』(新潮社、2005年8月25日)

『辻邦生第1エッセー集1961～1970 海辺の墓地から』(新潮社、1974年1月10日)

『異国から』(晶文社、1968年8月30日)／『辻邦生作品全六巻1』(河出書房新社、1972年11月30日)／『見知らぬ町にて』(新潮文庫、1977年7月30日)／『辻邦生全短篇』(中央公論社、1978年10月5日)／『辻邦生全短篇1』(中公文庫、1986年4月10日)／『辻邦生精選短編シリーズ2 シャルトル幻想』(阿部出版、1990年9月10日)／『辻邦生全集2』(新潮社、2004年7月25日)

『辻邦生第1エッセー集1961～1970 海辺の墓地から』(新潮社、1974年1月10日)／田村隆一編『楽しみと冒険4 この金色の不定型な液体』(新潮社、1979年8月20日)

表2 作品目録

初出年月日	作品名	初出誌
1935年	「春の景色」	『赤坂小学校文集』創刊号
1936年	「年始廻り」	『赤坂小学校文集』4号
1937年	「綴方の時間」	『赤坂小学校文集』6号
1940年5月28日	「初夏」	『ますらを』(日本大学第三中学校文藝部、1940年5月28日)
1941年1月20日	「窓より」	『ますらを』13号(日本大学第三中学校、1941年1月20日)
1944年10月	「月光と幻想」	『松本高校寮劇台本 月光と幻想』(1944年10月)
1945年8月10日	「遠い園生」	『思誠』23号(松本高校思誠寮、1945年8月10日)
1961年9月1日	「城」	『近代文學=近代文学』1961年9月号
1961年9月15日	「フランス文学のなかのロシアの顔」	サマセット・モーム編『世界文学100選5』月報(河出書房新社、1961年9月15日)
1961年9月15日	「ネミロフスキ 『舞踏会』」(翻訳)	サマセット・モーム編『世界文学100選5』(河出書房新社、1961年9月15日)
1961年10月1日	「神々の死の後に」	『近代文學=近代文学』1961年10月号
1961年11月1日	「小説への回転(改題=内面への転回)」	『近代文學=近代文学』1961年11・12月合併号
1961年12月	「時間という耕地について」	『学習院大学新聞』(1961年12月)
1962年1月1日	「影」	『近代文學=近代文学』1962年1月号
1962年2月	「ロマネスクとワイン」	『嗜好』(1962年2月)

年代	差出・作成	受取・宛先	種別	既発表/ 未発表	形態	点数	備考
	辻邦生		原稿	既発表	原稿用紙	2	原稿表題無
	辻邦生		原稿	既発表	用紙	1	FAX
	辻邦生		原稿	未発表	原稿用紙	2	『信濃毎日新聞』1997年11月21日夕刊「血にぬれた古代遺跡」分
	辻邦生		原稿	未発表	原稿用紙	2	『信濃毎日新聞』1997年12月12日夕刊「オペラ劇場の嬉しさ」分
			掲載書誌コピー		用紙	1	磯崎新・愛子氏宛連絡書有 掲載文中に磯崎氏についての記載有
1995年11月30日	信濃毎日新聞 東京支社報道 部増田正昭	辻邦生	書簡		用紙	1	FAX 本文より受取原稿は1995年12月1日夕刊掲載「ヘーゲル流行の実体」と推定
	辻邦生		原稿	既発表	原稿用紙	4	
	辻邦生		創作ノート	未発表	用紙断片	3	70箱36番、37番、38番紙背 『世界美術大全集15』月報掲載
	辻邦生		原稿	未発表	用紙断片	(1)	70箱35番P1紙背
	辻邦生		原稿	未発表	用紙断片	(1)	70箱35番P2紙背 原稿表題無
	辻邦生		原稿	未発表	用紙断片	(1)	70箱35番P3紙背 原稿表題無

表3 資料目録

箱番号	整理番号	受入年月日	資料群	資料	掲載書誌	所収原稿
70	28	1998. 3. 24	今日の視角／辻邦生が見た20世紀	「今日の視角／(表題無)」自筆原稿	=改題「少年たちの声」：『信濃毎日新聞』1998年3月20日夕刊／『辻邦生が見た20世紀』(信濃毎日新聞社、2000年7月29日)	
70	29	1998. 3. 24	今日の視角／辻邦生が見た20世紀	「今日の視角／小説「三四郎」のなつかしさ」ワープロ自筆原稿	『信濃毎日新聞』1998年11月28日夕刊／『辻邦生が見た20世紀』(信濃毎日新聞社、2000年7月29日)	
70	30	1998. 3. 24	今日の視角	「今日の視角／血にぬれたピラミッド」原稿		
70	31	1998. 3. 24	今日の視角	「今日の視角／東京オペラシティの味」原稿		
70	32	1998. 3. 24	今日の視角	『信濃毎日新聞』1997年6月6日夕刊部分コピー		「今日の視角／現代建築の方向」
70	33	1998. 3. 24	今日の視角	書簡(「今日の視角」原稿受取の礼、退院祝い)		
70	34	1998. 3. 24	中村眞一郎氏の思い出／海峡の霧	「わが師中村眞一郎」自筆原稿	=改題「中村眞一郎氏の思い出」：『信濃毎日新聞』1997年12月31日朝刊／『海峡の霧』(新潮社、2001年6月30日)	
70	35	1998. 3. 24	世界美術の廻廊から	「世界美術の廻廊から15 プーサンとセザンヌ」創作ノート		
70	36	1998. 3. 24	人間が幸福であることー人生についての281の断章ー	*『人間が幸福であることー人生についての281の断章ー』序文「はじめに」原稿《かなり歪められてしまう》		
70	37	1998. 3. 24	人間が幸福であることー人生についての281の断章ー	*『人間が幸福であることー人生についての281の断章ー』序文「はじめに」原稿《はじめに》		
70	38	1998. 3. 24	(エッセイ)	* (装幀に関するエッセイ) 原稿		